

意見募集要領

1. 名称

「先端技術等による自然エネルギー、ローカルエネルギーを活用した融雪技術」の評価項目及び試験方法（案）に対する意見募集

2. 意見募集の目的

平成30年1月から2月にかけて、首都圏や北陸地方に発生した大雪では、大規模な車輛滞留が発生し、その通行再開までに、当該地域の生活や、経済活動に多大な影響を与えたところ。上記事象を契機とし、冬期道路交通確保対策委員会によって、今後目指すべき大雪時の道路交通確保対策について議論が重ねられ、平成30年5月に中間とりまとめとして提言がなされました。この中で、局所的な道路融雪対策について、国は新技術の公募・評価を行う等、低コストで効果の高い技術の開発を促進することが必要であると述べられています。

一方、融雪技術については、これまで多数の技術が開発され国道等に活用されていますが、様々な熱源や融雪方式が存在する中で、それらの技術を評価するための指標が十分に整理されておらず、様々な地域状況に応じ、最適な新技術を比較検討することが困難な状況にあります。

上記を踏まえ、公共工事における新技術活用システムの「テーマ設定型（技術公募）」により、既に実用段階にある「先端技術等による自然エネルギー、ローカルエネルギーを活用した融雪技術」の公募を予定しています。そのプロセスの一環として、新技術活用システムの活用方式「テーマ設定型(技術公募)」の実施にあたり、上記技術の「評価項目」、それらを確認するための「試験方法」を設定する上で関係者の意見を募集し、その設定の参考とするものです。

3. 公募技術の概要

本公募でいう「先端技術等による自然エネルギー、ローカルエネルギーを活用した融雪技術」とは、自然エネルギー※1、ローカルエネルギー※2を利用することで、融雪エネルギーの節約を図った無散水融雪技術とします。

先端技術等※3を使用し、気象状況に応じて熱量、融雪箇所等を制御する場合、その概要を公表します。

※1：地下水熱、地熱、太陽熱、空気熱、海水熱、湖水熱、風力(電気)、太陽光、小型水力等

※2：温泉熱、都市廃熱、工場等温排水熱、下水熱、発酵熱、ペレット、ゴミ焼却熱等

※3：AI降雪検知器、インバータ制御節電、段階的制御節電等

(1) 応募を求める技術の要件

地域条件（降雪量）に応じ以下の2ケースを公募します。

①気温0℃で、設計熱量150W/m²（降雪量の多い地域）

②気温2℃で、設計熱量60W/m²（降雪量の少ない地域）

融雪面積は1,000m²とします。

(2)比較対象とする従来技術

- ①発熱線 1 m²あたりの発熱量 150W/m²の電熱ロードヒーティング
- ②発熱線 1 m²あたりの発熱量 60W/m²の電熱ロードヒーティング

(3)試験方法

- ①技術開発者が事前に室内試験等で性能等を確認した結果をもって、現場実証の結果に代えるものとします。
- ②応募者は、(1)応募を求める技術要件に示す 2 ケースについて、両方又はいずれかの応募を可能とします。
- ③応募者が、(1)応募を求める技術要件に示す 2 ケースに応募する場合は、2 ケースの試験結果を提出するものとします。
- ④応募者は応募する技術のカタログ、設計計算書、試験成績書等を添付し、応募する技術が評価項目を満たすことを証明するものとします。

4. 意見募集対象

別紙-2「先端技術等による自然エネルギー、ローカルエネルギーを活用した融雪技術評価項目及び試験方法（案）」

※ 意見内容は、「評価項目」「試験方法」に関するもののみとします。

5. 対象者

「先端技術等による自然エネルギー、ローカルエネルギーを活用した融雪技術」に係わる研究者・発注者・設計者・施工者・開発者・その他とします。

6. 応募方法

eメールでの応募に限ります。(電話・紙での応募は受け付けません。)

提出先 e メールアドレス : jyouhouka@hrr.mlit.go.jp

7. 応募様式

別紙-3

※ 発信者は職種・所属氏名を明らかにして下さい。(匿名での応募は受け付けません)

※ 応募様式は、

国土交通省 HP (http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_000530.html)

および北陸地方整備局 HP (<http://www.hrr.mlit.go.jp/gijyutu/singijyutu/index.html>)

よりダウンロードできます。